

STAGE+を楽しむ(175)(HP 収録)
—ルール・ピアノ・フェスティバル—

1. 始めに

前報(174)に引き続き、STAGE+のブルース・リウのルール・ピアノ・フェスティバルの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はブルース・リウのルール・ピアノ・フェスティバルの演奏を選びました。

ルール・ピアノ・フェスティバル

収録日: 2024年4月29日

最も活躍する若手ピアニストの一人、ブルース・リウ。2021年の第18回ショパン国際ピアノコンクールで優勝した直後、ドイツ・グラモフォンと専属契約を交わし、レコーディングも精力的に行っています。本映像では、ルール・ピアノ・フェスティバルからのライブ配信で、ショパンのピアノソナタ第2番《葬送行進曲》をメインとしたプログラムを披露します。情熱と哀愁を併せ持ち、時に気まぐれさも漂わせるショパンと共に、ハイドン、ベートーヴェン、プロコフィエフのソナタを演奏。中でも目を引くのはカプースチンの変奏曲で、ジャズとクラシックのスタイルを融合させてスリリングな効果をもたらす本作品をどう演奏するのか、注目されます。

ソリスト:

ブルース・リウ (ピアノ)

曲目:

ヨーゼフ・ハイドン ピアノ・ソナタロ短調 Hob.XVI: 32

フレデリック・ショパン ピアノソナタ第2番変ロ短調 op. 35

ニコライ・カプースチン 変奏曲 op. 41

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノソナタ第18番変ホ長調 op. 31-3 《狩り》

セルゲイ・プロコフィエフ ピアノソナタ第7番変ロ長調 op. 83

エリック・サティ 《グノシエンヌ》第1番

フレデリック・ショパン ワルツ第6番変ニ長調 op. 64-1 《子犬のワルツ》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

ハイドンのピアノソナタは、リウのクリアーな打鍵が冴えています。

ショパンのピアノソナタ第2番は、お馴染みの曲で、メランコリックでありながら力強いピアノリズムです。

カプースチンの変奏曲 op. 41 は、初めて聴く曲で、ジャズ風のリズム感があります。

ベートーヴェンのピアノソナタ第18番《狩り》は、お馴染みの曲で、軽快に展開します。

プロコフィエフのピアノソナタ第7番は、初めて聴く曲で、ダイナミックな演奏です。

サティの《グノシエンヌ》第1番とショパンのワルツ第6番《子犬のワルツ》は、アンコール曲のようでサティは詩情に富んだ小品、《子犬のワルツ》はお馴染みの曲です。

ルール・ピアノ・フェスティバルという催しは初めてですが、本年4月の収録とあって音質は透明度が高く、レンジ感も十分です。リウのピアノはクリアーな響きで若い感性の切れのよい演奏です。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、最新の収録におけるブルース・リウ の切れのよいピアノリズムが聴けました。

以上